



高知県

第47号 2007年3月

農業技術センターニュース

目次	
	ネギアザミウマの薬剤感受性 ……1
	タバココナジラミの土着天敵 タバコカスミカメ ……2
	出穂性の異なる‘コシヒカリ’同質遺伝子系統の特性 ……3
	OTハイブリッドリリー‘イエローウィン’での5月に掘り上げた切り下球の冷蔵方法 ……4
	茶園の簡易改植法と早期成園化技術 ……5
	中山間露地栽培におけるズッキーニの品種特性 ……6

ネギアザミウマの薬剤感受性



ネギアザミウマ（上）と IYSV

によるニラ病徴（下）

表 ネギアザミウマ幼虫の薬剤感受性（補正死虫率・％）

供試薬剤	希釈倍数	個体群				ニラへの登録
		I	II	III	IV	
ジメトエート乳剤	1,000	—	—	88	97	○
アグロスリン乳剤	2,000	100	100	24	100	○
オンコルマイクロカプセル	2,000	100	100	100	100	○
モスピラン水溶剤	4,000	63	80	47	50	○
ダントツ水溶剤	2,000	100	100	100	100	
アクタラ顆粒水溶剤	3,000	—	—	88	66	
スピノエース顆粒水和剤	10,000	100	100	100	100	○
ハチハチ乳剤	1,000	100	100	100	100	
アタブロン乳剤	2,000	—	—	94	89	

注1) 数値が大きいほど薬剤の効果が高いことを示す。

2) 個体群 I、II は2006年7月に黒潮町、III は同年7月に南国市日章、IV は2005年に南国市廿枝のニラで採集した。

ネギアザミウマ（写真上）は、ネギ、ニラ、果菜類、花き類など多くの作物を加害します。特に、ネギやニラでは直接的な加害だけでなくアイリスイエロースポットウイルス（IYSV）による病害（写真下）を媒介することから本種の防除が重要となります。そこで、ネギアザミウマの各種薬剤に対する感受性を調査しました。

その結果、ニラに登録のある薬剤のなかではオンコルマイクロカプセル、スピノエース顆粒水和剤の殺虫効果が高く、ジメト

エート乳剤の効果も認められました。しかし、モスピラン水溶剤の効果は低く、アグロスリン乳剤も個体群により効果が期待できない場合があります（表）。

ニラでは登録のある薬剤が少ない上、一部の薬剤に対して感受性の低下した個体群が認められたことから、今回の調査で効果が高かったダントツ水溶剤、ハチハチ乳剤などについて現在、登録促進に向けた取り組みを進めています。

（昆虫担当 古味一洋 088-863-4915）